

思い出の写真集①

三十五回生、石井庸三さんより実に懐かしい写真が送られてきました。「私の名前を当てて下さい」と左の写真の方が問えば、何人の方が答えられるでしょうか。柿崎さんはこの頃既に社会人？ 三十九回生増田さんはまだこの世に存在しない？ 正解は川上のぼるです。



朝日放送でやっていた腹話術「ハリスぼうや」です。ラジオ番組ですから、腹話術の場合は公開放送にしないとその意味をなしません。当時のハリスガムの森社長は千里山にお住まいで、その関係か？ この公開放送は何度か千二小で行われました。千里山会 奥田事務長は森さんのお嬢さんと同学年でよく遊びに行かれたそうです。ご自宅は下の噴水からお風呂屋さんの方に向かい、反対側の三木理髪店の前に石垣のある大きな家だったそうです。



思い出の写真集②

二十二年前の同窓会（平成二年）八月十日
二十七回生花組 千里阪急ホテルにて

隣の写真は東谷睦子先生と語る黒澤君
下の写真は出席者全員の写真 次頁にその数日後に出
席者全員に下さった先生の手紙



村津 嶋崎 牧野 山下 谷山 平尾 内田
明石 北 福尾 藤島 黒澤 長良
松田 高橋 寺島 松川 萩原 東谷先生 村田
女性は全て旧制 名前の下に棒線 □で囲った方は故人 (敬称略)

三年ぶりにみなさんのお元氣なようすに接し、うれしさをかみしめています。

この夏、娘の出産で久し振りに家に落着いていました。一日中、赤ちゃんと娘の世話をして、淡々と日が過ぎていきました。それはもう平和そのものです。

この赤ちゃんが将来成人を迎えるころ、私は八十五歳になります。その時に祖母の存在として何かを残しておきたい、過去はあまりにも無造作に過ぎてしまつて、「なにもない」という想いがある、余計そういつた念が湧きました。

そうした折、八月十日「六年花組会」に招かれたものですから、挨拶の中でついそのようなことが口からでました。そしてえらそうに「皆さんも、自分の生きたことを形として残すよう心掛けてください」と結びました。

あとで皆さんからそれぞれに「先生には私たちの今の姿が証として存在するじゃありませんか」という意味のことを言ってくれました。そして、「それは教師冥利に尽きるというものでしょう」とも言ってくれました。

正にその通り、私が「何も残っていない」なんていつたら花組の皆さんに大変失礼であり、自分自身を否定することになります。そこで、そんな弱氣をふつとばして、ますます盛んに八十五

歳まで生きたいものです。その時、花組の皆さんは六十七歳です。ね。

いくつになっても健康で楽しく暮らしていきたいものです。

三年後の一九九三年八月八日を楽しみにしています。

一九九〇・八・一九

東谷 睦子

これは、私（萩原）の仲間の一人が本棚を整理していて、偶然見付けた二十二年前の東谷先生よりの手紙です。この手紙を千里山会誌に掲載するお許しを得て、ここに紹介させていただいております。

我々二十七回生も今年六十九歳になり、この時の先生の年齢（六十四歳）を超えております。先生も今年の誕生日を迎えられると八十六歳になられるはずで、ご主人の勝司先生共々、お元氣に千里山でお過ごしです。勝司先生には毎回、会誌の特集企画でご協力・ご指導いただいております。

想い出の写真集③

二十九回生大森翠さんよりの懐かしい写真の数々



千里第二小学校 29回生 1年花組の女の子たち
昭和27年 本校の上の運動場か? 「みんなおしゃれ!」



29回生1年花組の仲間 昭和27年 千里山竹園町
中央の大人は柳生先生（後に神戸大学大学院教授を経て現在も健在
「千里第二小学校への想いと感謝」参照）



下新田 (現春日町) でのレンゲ草摘み 昭和24年春 大森 清・梢さん



春日町の桃畑 走っている少年は大森 清さん (24回生) 昭和24年春
当時の千里山の桃は岡山より美味しいといわれたものです。



いや〜懐かしい これは間違いなくコエタゴ (肥担桶) を運んでいるところでしょう。千里山から春日町に向けての道路 脇に竹藪 千里山は竹藪が多く、筍もたくさん採れました。後ろの少年2人は大森兄弟？



春日町 神社側から見た鳥居 写っているのは大森 清さん・梢 (現 瀧) さん (24回生 26回生) 昭和24年春



千二小 21 回生が大学時代の同期会 母親まで加わっての変わった集い
千里山ならではの会 ですね

